

『原三溪翁伝』第2篇第5章を読み進めました

7月の定例研究会は、総会と『原三溪翁伝』輪読を行いました。

◆総会（14:00～）

- ・藤嶋さんから、9月11日に実施される小田原箱根ツアーについて説明がありました。
- ・研究会会員のメーリングリストができました。
- ・会員証が配布されました。

◆輪読（14:15～）

発表者：佐々木義正

範囲：第2篇第5章（pp.352～384）

第5章 横浜大御所

第1節 植民地観を呈せる最初の横浜

第2節 政争渦中の横浜市政

第3節 大横浜建設の理想

第4節 愛市の一念

第5節 横浜の元締格



質疑応答では商人派と地主派の対立に言及した第2節に注目が集まりました。他の資料と照らし合わせてみると、著者である藤本實也があまり詳しくは書いていないことが分かります。これについて調べてきた会員の報告によれば、瓦斯局及び時報所の維持法について、歩合金問題がからんでもめたのだそうです。伝記を執筆する立場ではあまり踏み込めないテーマだったものと想像されます。



次回は第6章「三溪園」について藤嶋さんから発表の予定です。